

## 〈 社会人の窓 32 〉

### 建設中の福井県足羽川ダムを見学して

澤井 健二

2025 年 11 月 26 日（水）、京都水辺保全ネットワーク主催の河川研修会で、福井県九頭竜川支流に建設中の足羽川ダムを見学しました。この研修会は、主に京都市内に拠点を持つ水辺保全団体で毎年秋に企画しているもので、昨年は 11 月 15 日（金）に大和川流域治水見聞ツアーと題して、奈良県川西町で建設中の保田遊水地と亀の瀬地すべり歴史資料室を見学しました。

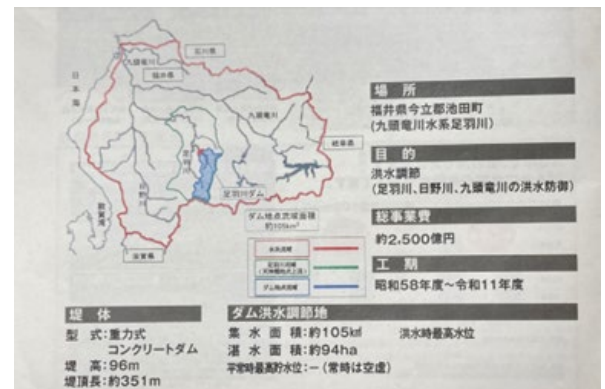
今回、足羽川ダムを見学したいと考えたのは、流水型と言って、平常時は水を貯めない洪水調節専用のダムであるからです。流水型ダムは全国でも例が少なく、国土交通省では現在次の 5 地域で建設や計画、及び管理が行われています。三笠ぼんべつダム（北海道：北海道開発局）、足羽川ダム（福井県：近畿地方整備局）、大戸川ダム（滋賀県：近畿地方整備局）、城原川ダム（佐賀県：九州地方整備局）、阿蘇立野ダム（熊本県：九州地方整備局）、川辺川ダム（熊本県：九州地方整備局）。流水型ダムは平常時に水を貯めないことから、比較的規模の小さいことが多いのですが、足羽川ダムは高さ 96m、総貯水容量 2,870 万 $\text{m}^3$ と大きく、日本最大級になっています。日本初のゲート付き流水型ダムであることも大きな特徴です。

足羽川は福井市の中心地を流れ、2004 年 7 月の福井豪雨時に決壊が生じ、死者・行方不明者 5 名、浸水家屋 13,000 棟以上という大災害を引きおこしました。足羽川ダムの実施計画はそれより 20 年以上前の 1983 年に調査が始まり、1994 年には建設事業に移行していましたが、旧計画ダムサイトは約 220 戸の移転を要するなど、社会的影響が大きいため、水没世帯を極力少なくする代替案が検討され、2007 年に現在の計画が正式決定されました。それでも移転世帯は 68 に上りました。なお、ダムサイトを当初計画より上流に移動して、支川の部子川（へこがわ）に移したため、別の支流である水海川の水は、平常時にはそのまま下流に流しますが、洪水時には直径 8.5m、長さ 4.7km の導水トンネルを経て足羽川ダムへ導くようになっており、現在そのための分水施設も建設されています。将来はさらに上流にある支川や本川の水も別の導水トンネル（直径 13m、長さ 11km）を経て足羽川ダムに導く構想になっています。

見学ツアーは午前 9 時に京阪電車で中書島駅前からマイククロバスで出発し、いつもの如く、まず、車窓から巨椋池干拓地を見つつ、澤井がマイクを持ってバスガイド役と

なって行程の概要を話した後、22 名の参加者全員から、自己紹介と補足説明を交えた意見交換をしつつ、12 時に道の駅越前たけふで昼食休憩をとりました。参加者の半数は主催団体である京都水辺保全ネットワークのメンバーでしたが、あとの半数は大阪府内も含めたかなり広域（最遠は広島県）からのメンバーで、近畿地方整備局の佐藤河川計画課長補佐にも加わって頂いたことから、大いに議論が盛り上がりました。また、ネットワークの中村会計が越前のご出身であることから、昼食のメニューに格段のご配慮をいただき、越前そば寿司カニ定食に全員大喜びでした。

紅葉の真っ盛りでもあつて、道中は結構渋滞し、予定を 1 時間オーバーして、19 時に帰着しました。



足羽川ダムの位置と諸元



建設中の足羽川ダム上流側

（中央付近に停まっているミキサー車の左上にある横棧の奥に、縦横 5m の河床部放流設備がある。そのすぐ右にあるのが常用洪水吐、右端は小流量放流設備。今後、天端近くに非常用洪水吐が設置される。）

（淀川愛好会相談役、水辺に学ぶネットワーク会長）



# イベント報告

## 淀川まるごと体験会 2025・夏

9月21日(日)9時30分から、淀川左岸淀川新橋下流点野砂州、ワンド周辺でねや川水辺クラブと淀川愛好会等主催による「淀川まるごと体験会 2025・夏」が行われました。約30名の参加者がEボート、カヌーなどの水辺体験、河畔緑陰での昆虫観察会、自然の材料を使用したクラフト体験、堤防決壊モデル実験、浸水歩行体験など行いました。子供から大人まで幅広い方に淀川の魅力や防災について知って、体感していただく機会となりました。(高岡 祐丞)



Eボート乗船時の様子



昆虫観察会の様子

## 川の恵みを活かすフォーラム 第1部 川の恵みを活かす報告会

10月19日(日)10時から、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー本館1Fセミナー室で「川の恵みを活かすフォーラム 第1部川の恵みを活かす報告会～京と大阪で川の恵みを活かす～」が開催されました。大阪湾から京都への旅路を辿って、川の恵みの現状報告や、川と河口域の環境を良くするための活動報告などがされ、摂南大学生態環境学研究室からも芥川におけるアユの遡上・繁殖・流下仔魚の現状の報告と、高野川出町柳におけるゴリ・ハエの繁殖状況と産卵床造成の結果について報告を行いました。(高岡 祐丞)

今年4月から8月にかけて実施したアユの遡上調査と、昨年行った仔魚調査の成果を発表しました。約5か月にわたる調査内容を20分間に凝縮し、来場者の前で発

表するのは大きな挑戦でしたが、自分たちの研究結果を多くの方に見てもらい、やりがいや達成感を直接感じる貴重な機会となりました。当日は、コンサルタントの方や淀川河川事務所の方による発表もあり、私たちが考えていなかった海での生活史や遡上期間以外の水温データなど、多角的な視点からアユの遡上に関する研究が行われていることを知ることができました。今回の発表は、今後控えている卒業研究発表の良い練習にもなり、データ整理や資料作成の重要性も改めて実感しました。フォーラムへの参加を通して、調査の日々がより意義深いものとなり、充実した日々を過ごすことができ、心から感謝しています。(梅澤 祐輔)



発表をしている石田ゼミの梅澤君と岡田君

## 第2部 食味会～川魚の味比べ～

10月26日(日)12時から、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー(第二京阪道路下)において「第2部食味会～川魚の味比べ～」が開催されました。小雨の降る中、約100名の参加者が琵琶湖や淀川汽水域を含む、各地河川の天然アユの塩焼きや、サワガニの唐揚げ、淀川河口産天然ウナギの蒲焼などを実際にいただきました。炭火で焼かれた魚は香ばしく、内臓のほろ苦さと身の旨みが印象的で、素材そのものの味をじっくり味わうことができました。多くの人が笑顔で会話を交わし、楽しそうに食べている様子を見て、関わった者としてとても嬉しく感じました。火を囲んで人が自然と集まり、笑い合う光景を見て、食を通した交流の力を改めて感じました。(高岡 祐丞)



アユを焼いている様子



## 天若湖アートプロジェクト 2025 「あかりがつなぐ記憶」

11月15日(土)から16日(日)にかけて、天若湖アートプロジェクトが主催する「あかりがつなぐ記憶」が京都府日吉ダム・天若湖周辺で実施されました。これは、ダム建設に伴い移転を余儀なくされた5つの集落の家屋があった湖面にあかりを灯し、かつてこの地域に広がっていた夜景を再現するプロジェクトです。2005年から続く取り組みは今年で20周年を迎えました。今年は5つの集落のうち、世木林・沢田・楽河の3地点で設営が行われました。一方、全国で相次ぐ熊の被害を受け、安全面を考慮して一般観覧は中止となりました。前日から学生スタッフによるあかりの準備が行われ、当日は桂川・猪名川ダム総合管理所の協力のもと、摂南大学エコシビル部の学生をはじめ多くの方々の尽力により、安全に作業が進められました。夜間には3地点のうち1地点であかりが灯され、かつて天若に存在していた集落へ思いを馳せるとともに、ダムの役割や地域の歴史に触れる時間となりました。(高岡 祐丞)



湖面に浮かぶあかり

### 茨田イチョウまつり



イチョウまつりの会場の様子

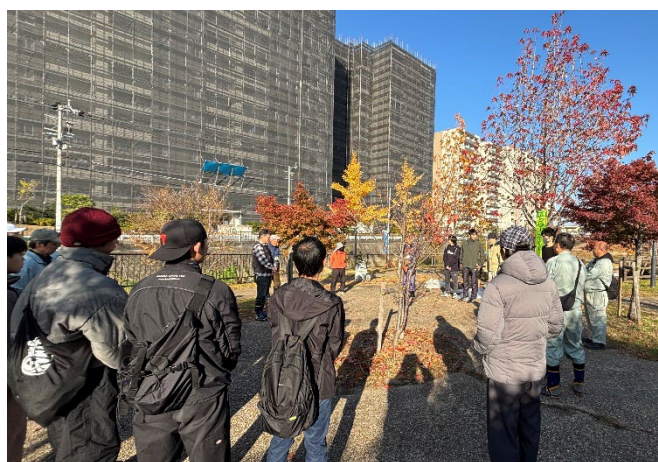
11月23日(日)午後1時から茨田樋遺跡水辺公園、淀川左岸幹線水路において、第18回茨田イチョウまつりが開催されました。当日は秋晴れの好天に恵まれ、会場は終始明るい雰囲気になっていました。Eボート乗船体験やどんぐり工作などのクラフト体験、堤防決壊模型実験、ねや川水辺クラブや河川レンジャーなどの参加団体によるパネル展示やスピーチが行われ、来場者には焼きギンナン

が振る舞われました。

石田ゼミは豚汁の提供を行いました。前日からさまざまな準備を重ね、多くの方が美味しく食べる姿を見ることができ、うれしく感じました。(高岡 祐丞)

### クリーンリバー寝屋川作戦・秋

11月30日(日)9時から寝屋川せせらぎ公園・幸町公園にてクリーンリバー寝屋川作戦・秋が行われました。春には雨天のため、中止になりましたが今回は晴天の中、無事に行われました。幸町公園での参加人数は約30名となり、一般の方の参加もありました。ビニールのごみやお菓子のごみ、水風船の残骸が多くありました。ただ、去年に比べれば減少していたと感じました。それぞれ作業場所を担当する形で進んだこともあり、予定通り作業が進みました。掃除後には見違えるほど綺麗になり、心もすっきりしました。(高岡 祐丞)



幸町公園での様子

## イベント案内

### 淀川愛好会 総会 2026

日時：2026年2月21日(土) 11時～12時

場所：摂南大学寝屋川キャンパス1号館3階 都市環境工学科会議室

### 第10回近畿河川フォーラム兼第26回淀川討論会

日時：2026年2月21日(土) 14時～17時

場所：摂南大学寝屋川キャンパス3号館311教室

内容：河川協力団体の動向

参加団体の活動紹介

参加費：無料

懇親会：17時半より学内で立食パーティー(3000円)

申込締め切り：2月8日

連絡先(問い合わせ先)：淀川愛好会事務局

## 〈学生の窓 32〉

### ゼミ活動を通して

宇野 真白

今年も残すところあとわずかとなりましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

私は卒業研究として「淀川河口調査」に取り組んでいます。研究対象は淀川の十三干潟にある水路であり、生態系および環境特性の解明を目的としています。

淀川河口は汽水域に位置しており、水質は潮位変動などの影響を強く受けるため、環境条件の特定が容易ではありません。この複雑な環境の中で、生物相と環境特性との関係を把握することが、本研究の大きな課題となっています。調査では、魚類や底生生物など、淡水域・海水域双方に適応した生物が採集されており、汽水域ならではの多様性が確認されています。そのため、各生物の生息環境や出現傾向を理解するには、基礎的な生態知識の深化が不可欠であると感じています。下の写真は調査で採れたテナガエビをゼミ室で調理し、試食しました。見た目から想像できるように、非常に美味しくいただくことができました。こうした体験は、教室では得難い貴重なものになっています。

本研究は今年度から新たに開始されたテーマです。次年度以降の後輩の研究へと継続していくことを視野に入れながら、この先の研究も頑張りたいと思います。



調査で採れたテナガエビの素揚げ

また、私は教職課程を履修しており、卒業後は母校の工業高校に勤めることを目標にしております。ゼミでの経験を糧とし、専門分野における知識と教育的視点の双方を高めながら、将来的には教育と土木技術の両面から社会に貢献できる教師を目指して取り組んでいきたいと考えています。

新年も何とぞよろしくお願いいたします。

(摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ4年)

## 書籍紹介

よたくせんざい 餘澤千歳—筑後川 人と自然の物語 上巻

著者：玉川孝道

発行：北部九州河川利用協会

発行日：2025年1月18日

A4版 328ページ 非売品

筑後川改修100年の節目に合わせ、人と筑後川の関りを元西日本新聞社副社長の著者が、関係者や周囲の人々へのインタビューとともに、様々な角度から描いている。

第1章 暴れ川の教訓—昭和28年大水害の痛撃

第2章 河川改修100年「粘り強い堤防」へ

第3章 苦難を乗り越えて 松原・下笠ダム50年(前編)

第4章 蜂の巣城13年の闘 松原・下笠ダム50年(後編)

第5章 水郷と水害の狭間で — 日田の苦闘

第6章 なぜ、筑後大堰は造られたか

第7章 筑後大堰からの「新しい川」

付記 「筑後川本格改修100周年記念」座談会



## 編集後記

今回は「淀川まるごと体験会2025・夏」をはじめに6つのイベントが行われました。

とくに「天若湖アートプロジェクト2025—あかりがつなぐ記憶」は、20年にわたり続けられてきた意義深いイベントです。そこには都会では味わえない幻想の世界が広がり、心をそっと導いてくれます。私も一度参加した際、あの夜のその美しさに深く感動しました。

現在、全国で5地区において建設が進められている「穴あきダム」のひとつである福井県足羽川ダムを視察し、今しか見られない堤底まで降りさせていただくという貴重な機会を得ました。河川環境への配慮として設けられた5.0m四方の開口部は、想像していたよりも小さく感じられました。工事着工から16年の歳月を経て、完成は2029年の予定です。川と人、そして生きものたちが共に生きる新たな関係を築こうとしている——そういう・・・ダムです。

編集長 岡崎善久 (岡崎善久建築設計事務所)

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：<https://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/>

E-mail：[ishida@civ.setsunan.ac.jp](mailto:ishida@civ.setsunan.ac.jp)